





## 2. 評価結果(詳細)

( ■ 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念と運営方針をあつたか荘の合言葉「一緒に、楽しく、のんびりと」の基に具現化を図っている。「一緒に」の中に地域と共に在ることを含め、地域との連携を深めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝全員で復唱し、共通認識の基に理念の実現に努めている。管理者は、理念の実現に向けて職員に具体的に指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、話し合いや公民館清掃等の自治会行事、秋祭りに参加している。ホームの夏祭りには地域の方にも参加してもらっている。地元の婦人会、小中学生、保育園児が訪れることがある。地域での唱歌を歌う会に参加されている方もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果は、全職員で再検討し、日常の支援に活かしている。また、家族や外来者が何時でも見ることが出来る様に玄関に置いている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営方針、日々の取り組み、行事の様子、行政や地域の立場からの意見や質疑などいろいろな事が話し合われている。会議の中で出た音楽療法も早速取り入れられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の福祉担当課へ出向くことも多く、入居者の様子を伝えることによって認知症への理解を深めてもらっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に面会時に日頃の具体的な暮らしぶりや健康面を中心に戻報している。度々の面会が困難な家族に対しては電話による報告をしている。金銭関係もきちんと報告がなされ、家族の了承を得ている。ホーム便りの発行は、現在、中断している。	○	ホーム便り発行再開の意向も十分にあるので、その実現を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気づくりを心がけ、家族を笑顔で迎えている。面会時に要望を尋ねたり、意見箱を置いたりしている。意見や要望等は、記録に残し、その内容によつては即刻検討したり、定例会議で取り上げて話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は、理事長に配置換えを出来るだけ少なくしてもらうよう要請し、最小限の異動になっている。ホーム開設依頼の職員も数名いて、それぞれが要の立場で運営等にも携わっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の機会が数多く設けられ、研修に励んでいる。外部での研修にも積極的に参加し、レポートも提出し、自己研鑽に努めている。新規採用職員にも計画的に研修の機会が設けられ、加えて施設長や主任が、諸機会を捉えて指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長や主任は、他事業所等との交流の機会をもつているが、一般職員までその輪が広がっているとは言い難い。	○	同じ町内にはホーム数は少ないが、他の事業所との職員間の交流の機会を確保し更なるサービスの質の向上が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に通所によってホームでの暮らしを体験してもらったり、入居後は誰とでもうちとけやすい方と居場所と一緒にしたり、独りにしない等の配慮をしながら、不安感を無くす様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の自主、自立の気持ちを大切にしながらの支援に努めている。入居者の行動や言葉の心底にある気持ちを共有する姿勢である。人生の先輩である入居者から教えられる事も多い。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望を入居時の情報や入居後の行動や言葉、ちょっとした表情からも把握する様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方にについて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その方らしい暮らしを送っていただけるよう、本人や家族の意向を十分に反映した介護計画である。計画案は全職員で検討するだけでなく、家族に説明し、意見や要望を出してもらい、本人主体の計画としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、その時々に応じて柔軟な見直しが行われている。長期目標、短期目標に基づく評価も一ヶ月毎になされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一時帰宅や外出は健康状態が良ければ何時でも可能である。家族と共に通院、理美容、その他の用事で外出したり、外泊される事も多々あり、柔軟な対応がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの受診歴や希望が把握されている。母体病院での受診が多いが、これまで通院していた病院での受診を希望される方は、家族が通院介助している。受診内容は主治医に情報が伝えられている。協力医療機関とは何時でも受診や相談ができる、家族の安心にもつながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族と話し合い、その場合の指針について文章化されている。入居後も健康状態の変化に応じて、主治医を含めて家族と話し合いが持たれ、支援が行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を損ねない言葉かけや介護を目指している。居室に入る時は本人の了承を受けたり、居室の施錠を希望される方にはそれを認めている。個人情報の取り扱いについても意識を統一している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体の一日で、ゆったりとした暮らしである。おおまかな一日の流れはあるものの、起床、就寝、食事の時間等も自由である。思い思いに居間や居室で過ごされたり、散歩されている姿を見ることができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者向けの献立が用意され、おいしそうに盛り付けである。体調に合わせた食事内容でもある。職員も入居者と一緒に食卓を囲み、さりげなく介助しながら同じ食事を摂っている。調理の下ごしらえや食卓の準備、後片付けをしている入居者もおられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お湯が張ってあり、何時でも入浴出来るが、午後の入浴がほとんどである。入浴時間に制約は無く、ゆっくりと入浴されている。入浴を嫌がる方にも声かけや時間を工夫して入浴してもらっている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食事の後片づけ、茶碗拭き、花への水やり、野菜畑の世話、その他その方らしい役割があり、生きがいの一つにもなっている。唱歌、ポール遊び、折り紙、昔話等を楽しまれる方もあり、職員は笑顔で支援している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけている。散歩の途中で野の花を摘んだり、お菓子を食べたりすることもある。帰宅願望があられる方には散歩やドライブで気分転換を図っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ横に駅のホームと遮断機の無い踏切がある。帰宅願望の強い入居者もおられ、安全確保のため、玄関にセンサーを設けてある。家族には入居時にその理由を説明し、理解、了承が得られている。居室の施錠を望まれる方には、その意志を尊重している。		
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害避難訓練が実施され、災害対策マニュアルも整備されている。自治会に出席した機会に協力を要請している。夜間の訓練も想定されているが、現在までは実施されていない。	○	職員だけでの誘導の限界を具体的に確認し、地域の方や地元消防団の参加・協力を得た避難訓練等の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や栄養のバランスに配慮した献立がたてられ、管理栄養士にみてもらっている。おおまかな食事摂取量や水分摂取量は、各人ごとに把握されている。健康状態に合わせた食事であり、盛り付けや食事量も工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはやわらかい光が差し込み、明るい室内である。耳障りな音が無く、食事準備の音や匂いが家庭的な雰囲気をもたらしている。季節の野の花や雑飾もあり、窓からは、田畠の作物や草花、鉄道を走る電車が身近に見え、季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口は、その方の好みに合わせて、それぞれ特徴がある。室内にはお孫さんの写真や鏡台、椅子、縫いぐるみ、その他なじみの物があり、安らぎのある場所になっている。		